

Note-taking指導のための外国語教材開発

ノートルダム清心女子短期大学
達川 壺三

I. はじめに

note-takingは大学レベルの講義などを聞く際のいわゆる‘Academic Listening’の分野での研究が多くなされ、英米では‘academic skill(s)’や‘study skill(s)’と呼ばれてきた。母語であれ外国語であれ、ある分量の談話(教材)を聞く際に、我々の記憶できる量やそれを保持できる期間には限度があり、note-takingという作業が必要となってくる。しかし、このような大切なnote-takingのスキルを日本の英語学習者に対して、系統的に指導しようとする取り組みは、残念ながらあまりなされておらず、その必要性が指摘されている(橋本 1989: 23, 堂鼻 1994: 20)。

そこで本稿では、まずnote-takingの本質を明らかにし、外国語リスニングを指導する際の2つの視点について言及する。また、後半では日本の英語学習者(とりわけ中学・高校生)にnote-taking指導をする際のより具体的な教材開発のポイントをいくつか整理してみたい。

II. Note-takingとは

1. noteの定義(辞書の定義)

まずは一般的な辞書の定義を見てみたい。LDCEとCOBUILDには次のような記述が載っている。

note (n.) 1. a record or reminder in writing

3. a short usu. informal letter (LDCE)

note (n.) 1. A note is a short letter.

2. A note is something you write down to remind yourself of something. (COBUILD)

(下線は筆者)

ここで注目したいことは、両書ともnoteはshort letter、つまり「短く書かれたもの」であり、もうひとつは自分が後で「思い出せる」(remind)ように書かれたものであるという点である。ちなみにCOBUILDにはnote downでもエントリーがあり、noteを取る際には「素早く」(quickly)行う必要があるようだ。

note down If you note down something, you write it down quickly, so that you have a record of it.

(下線は筆者)

2. 「学習」に関わっての定義

Di Vesta and Gray (1972: 8)は、「学習」ということに関わってnoteは次のいずれか、または両方の機能を持つと述べている。

①an encoding mechanism

学習者が聞いている際に浮かんでくる主観的な連想・推量・解釈を転写することを可能にさせる。

②an external storage mechanism

学習者が後で学習をしたり参照したりするための材料を与える。

この捉え方を外国語学習の視点から補足してみると、①の機能はlistening comprehensionを促進するためのものであり、②の機能はpost-listeningの作業をスムーズに行う際に重要となる。

3. Note-takingをするための能力

大学での英語（外国語）の講義を聞いて理解するためには、「長い話や専門的な語彙を

①listening

②understanding

③remembering

④evaluating

⑤organizing

⑥writing fast and efficiently

⑦retrieving

する能力」が必要だとしている(Montassir 1977: 3)。人の話を聞いてnote-takingする際にlistening, understanding, writing fast and efficientlyなどの能力は当然必要であるが、④と⑤の能力も見逃してならない。④evaluatingの作業をするためには、何が重要で何がそうでないかを選択しなければならず、その選択したものを意味あるつながりを持たせるためには⑤organizingする必要があるからだ。

4. Note-takingと個人差の許容

note-takingの本質を考えるにあたり「個人差の許容」を確認しておきたい。実験を通じてChaudron *et al.*(1994)は note-taking の有用性を認めながらも、「note(s)だけを見て内容理解の度合いを判断することはできない」とも述べている。

“it is evident that lecture note quality (in a strictly formal sense) should not be considered directly as a measure of comprehension, i.e., no strong or consistent relationship between our quantity and quality measures and comprehension was observed.” (Chaudron *et al.* 1994 : 89)

note-takingは基本的に自分が見るために行う活動であり、したがって「個人差（または多様性）を許容すべき」であることを忘れないようにしたい。

Ⅲ. Note-taking指導のための2つの視点

1. 内容（語）を聞き取る（センテンス・レベルの指導）

英語は大きく「内容語」と「機能語」に分かれるが、単独で用いられても意味（語彙的意味 lexical meaning）を持つ「内容語」をしっかりと聞き取ることが大切である。しかも「内容語」はふつう強勢において発音されるので聞き取り易く、初級学習者にはまずはそれらをnote downするような訓練をすべきである。

2. 談話のframeworkを聞き取る（ディスコース・レベルの指導）

センテンス・レベルでのnote(s)が取れるようになれば、次の目標としてディスコース・レベル、つまり談話の概要(framework)を捉えさせる指導に移行したい。その際に留意すべきなのがdiscourse marker(s)「談話の指標」と呼ばれているものである。（‘logical connectors’ Morrison

(1978: 168), 'transitional wording' 藤枝他(1995)などとも呼ばれる。) この点に関して Underwood (1989: 16-19)は外国語学習者の7つのリスニング困難点の1つとして、failure to recognize the 'signals' をあげている。

この分野で示唆に富む研究としてはChaudron and Richards (1986)があり、「談話の指標」をmacro marker(s)とmicro marker(s)に分けている。彼らの研究によると、明確なmacro marker(s)を含んだ談話は外国語学習者の聴解を促進したとしている。したがって教授者は次の点に留意すべきである。"the lectures should be well-organized, as the students are just learning to take notes in outline form." (Montassir 1977: 6)

IV. Note-taking 指導のための教材開発

それではnote-taking指導のための具体的な教材例を5つのポイントから見てみたい。

1. 「語や文を短縮して書き留める」ための教材 (symbolsやabbreviationsなどの使用)

まずはsymbolsやabbreviationsなどの利用して、「語や文を短縮して書き留める」訓練をさせたい。例えば次のような英文を学習者に聞かせてみる。

(例)

"I'm going to tell you our schedule for January 26. The train we're going to take leaves at 10:30 and arrives at 12:38."

このような文を聞いた時、私たちは普通

「 1/26, 10:30 →12:38 」

のようなメモを日常生活では取っているのではないだろうか。

中学・高校生に対して示すことのできるsymbol(s)の例として以下のようなものが紹介されている。

(具体例)

=	equals; is the same as (同じ)
≠	does not equal; is different from; is not the same as (同じではない、違う)
>	is greater than; is more than ((左の方が右より)大きい、多い)
<	is less than ((左の方が右より)小さい、少ない)
↑	to go up; to increase (上へ行く、増える)
↓	to go down; to decrease (下へ行く、減る)
&	and (～と～)
w/	with (～と)
w/o	without (～なしで)

(例) the stock ↑
coffee w/ cream

(『NHK英語リスニングテスト中級Ⅱ』1996: 9)

また、abbreviation(s)に関しては、communication, internationalなどの長い綴りの単語を「comm.」や「intl.」などの略語を使ってメモを取らせる訓練をさせてみたい。

2. 「要約する」ための教材 (summarizeさせる)

私たちは「伝達内容を聞いて要点を理解し、整理して相手に伝達しようとする場合、聞き手は文や文章を短縮する方向性と意味をできるだけ保持しようとする方向性をとっている」(松村1990: 138-39) (下線は筆者) ようである。note-takingはたいていの場合、時間的な制約の中で行われており、聞いた内容を一字一句 dictationをすることは不可能であるので、文や文章を短く「要約して」メモを取るスキルが必要となってくる。

(例1)

Boy: I wonder if you would go out with me next Sunday.

Girl: It's very nice of you to ask, but I have an exam on Monday. I have to study on Sunday.

Thanks anyway.

(Sailing: 35)

→She can't go out with him because of the exam.

(例2)

A 10-year-old girl fell from the roof of a 5-story apartment building in Osaka yesterday afternoon, but surprisingly was safe receiving only minor injuries on the back. (Listen: 41)

→A girl fell from a 5-story building, but luckily did not die.

3. 「supportを段階的に減らす」ための教材 (基本的なformatを提示できるものを用いる)

学習者の中には上で述べた「語や文を短縮して書き留める」力はあっても、それをメモとしてどう整理したら良いのかわからない者もいる。このような段階においては、まずは基本的なformatを提示できるものを示し、そのようなsupportを段階的に減らすような指導をしてみたい。具体的にはスケジュールや約束を記入する「日程表」や、下に示したような外出中の人にかかってきた「電話のメッセージ・メモ」などを用いることができる。

<u>WHILE YOU WERE OUT</u>	
To :	Date :
	Time :
From :	
(Phone Number :)
<u>MESSAGE</u>	
Taken by :	

(Adapted from *Hello, there!*: 53)

「電話のメッセージ・メモ」などでは含めるべき情報がある程度決まったものがあり、最初はそのformatを学習者に示し、その後徐々にそれらのsupportを減じていき、最終的にはblank sheetのみを与えてnote-takingをさせるタスクの設計をすると良い。そうすることで、note-takingをより現実的な作業(authentic task)とすることができる。

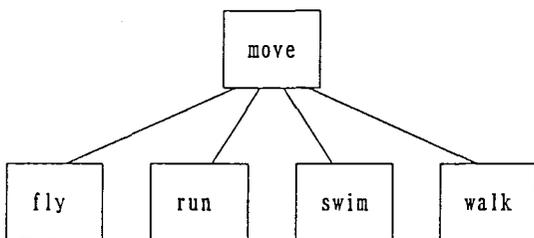
4. 「『位相』を整える」ための教材

個々の情報や部分的な内容を聞き取りnoteできて、それが全体の中でどのような役割を果たしているのかを判断できないことがよくある。これは聞いた passageの「位相」(各項目間の相対的關係)の整理がうまくできていない場合が多いのではなからうか。「位相」の整理とは、ものごとの「上位(概念)」と「下位(概念)」の区別を意識させること、と言い換えることもできる。

(1) 「単語レベル」

初級学習者にはまず「単語レベル」で「上位」と「下位」の概念を理解させてはどうだろうか。次のような語群を与え、それらの関係を考えさせてみる。下に示したような上下関係があることを理解させたい。

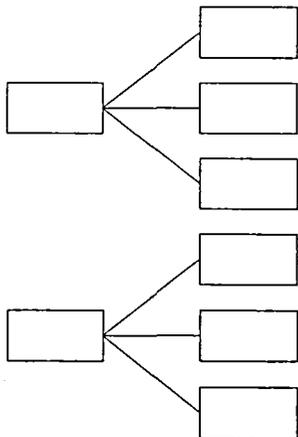
(fly, move, run, swim, walk)



(『ロングマン応用言語学辞典』: 169)

(2) 「パラグラフ・レベル」

次には「パラグラフ・レベル」で「位相」を意識させてみたい。例えば、次のtreeに当てはまるように下の8つの英文を整理させてみる。



- ①He enjoys surfing in the sea.
- ②He enjoys listening to classical music.
- ③He is quiet and likes to stay at home.
- ④He is very active and outgoing.

- ⑤I often play tennis with him.
- ⑥He often rents videos and watches them.
- ⑦He likes reading, especially detective stories.
- ⑧He knows many camping spots and visits there.

③、④が上位概念を扱ったtopic sentence(s)でありtreeの左のいずれかに入る。そしてその他の6つの文(②⑥⑦と①⑤⑧)がそれらを説明するsupporting sentence(s)である、と理解できれば良い。

(3) 「文章レベル」

そして最終的には「文章レベル」で「位相」の理解をさせたい。次のようなメモを示し、下にある英文を聞いてそれがどの部分についての情報かを判断させてみる。

Communication with people
in remote places

- I. Mail
 - A. ordinary mail
 - 1. letter
 - 2. card
 - B. express mail
 - C. registered mail
- II. Telephone
 - A. phone
 - 1. traditional phone
 - 2. mobile phone
 - B. answering machine
 - C. fax machine
 - D. pocket pager
- III. Telegram
- IV. Internet
 - A. E-mail
 - B. others

①If you want to send your message quickly, you may choose this type of mail. However, in addition to the regular cost, you will have to pay a special fee.

②This is another traditional way of sending a message. The receiver doesn't need any equipment. Usually the message is very short.

③A computer is necessary for the next type of communication. More and more people are using computers. They are able to obtain various kinds of information by accessing data.

(例えば①であれば、I .B. express mail についての情報ということになる。)

5. 「談話のframeworkを把握させる」ための教材 (text structureの明確な談話を与える)

また談話のframeworkを学習者の頭の中で構築することを要求する教材を与え、successful note-takerとなる援助をしたい。これにはtext structureの明確な談話が有効である。

①chronological orderに沿ったもの(events sequenced in time)

(例) 「あるプロテニス選手の半生」

Year	Age	Event	Place
1958			
		began playing tennis	
			Wimbledon
	34		

(Adapted from Nunan and Miller 1995: 228)

②contrastを扱ったもの

(例) British English vs. American English

ある事象に対して賛成と反対の意見・主張

その他、談話の組み立てが学習者にとって馴染みがあり(familiar)、予測可能な(predictable)ものを与えることが望ましい。

ついでながら、筆者はこれまで色々な外国語リスニング教材におけるタスクの分析を行った(達川: 1995, 1997)が、その中で中学・高校生を対象としたnote-taking指導につながる教材としてはIV.4.や5.の視点を踏まえたものが少ない、という印象を受けたことを付け加えておきたい。

V. より効果的なnote-taking指導のために

これまで述べてきたような教材を用いてのnote-taking指導をより効果的にするために、次の2点をできるだけ取り入れたい。

1. note(s)の実例の提示

どのようにnote(s)をとれば良いか自信のない学習者は、他の学習者のnote(s)例からsuccessful note-taking skill(s)を学習することができる。その際、例示したnote(s)の内容を見るポイントとしては、Chaudron *et al.*(1994: 86)が用いた以下のようなものが参考になる。

'NOTE-TAKING QUALITY MEASURES'

- ①Title provision of lecture title
- ②Numbering numbers of letters indicating a list
- ③Outline use of hierarchical outlining
- ④Examples provision of signalled examples
- ⑤Verbatim evidence of transcription, completeness
- ⑥Diagrams provision of sketches, figures, maps
- ⑦Symbols provision of arrows, boxes, etc.
- ⑧Abbreviations provision of abbreviated words
- ⑨Words all units not numbers, symbols, or diagrams

2. 他技能との統合

note-takingのスキル獲得は、listeningを通しての取り組みだけでは効率的ではない。listeningの

指導がreadingとの共通点が多く見いだせるのは当然のことであるが、productiveな技能とされるspeakingやwritingとの統合をぜひ視野に入れたい。

(例) speaking・・・listeningの際に書き留めたnote(s)をもとに、第三者に対してretellingさせる。writing・・・パラグラフ・ライティングなどを通してkey sentence (またはmain idea) と supporting sentence(s) (またはdetail(s)) の関係に留意させる。(「上位概念」「下位概念」を区別し「位相」を学習者に意識させる。)

VI. おわりに

英語教室において、とりわけリスニング指導をする際に、我々英語教師は「(できるだけ)メモを取りなさい」と学習者に指示をするが、それがかけ声だけに終わっている実態はないだろうか。note-takingのスキルは、母語であれ外国語であれ、学習者が発達するにつれ、その必要性は段階的に高まると思われる。中学校や高等学校でも、その基礎的な指導はぜひ行われるべきであり、そのための適切な教材開発をすることは大変重要である。本稿が外国語教育におけるnote-takingのより良い指導のための一助となれば幸せである。

【参考文献】

- Chaudron, C., and J.C.Richards. (1986) "The Effect of Discourse Markers on the Comprehension of Lectures." *Applied Linguistics* 7(2), 113-27.
- Chaudron, C., L.Loschky, and J.Cook. (1994) "Second Language Listening Comprehension and Lecture Note-taking." in J. Flowerdew (ed.) *Academic Listening*. Cambridge: C.U.P., 75-92.
- Di Vesta F., and G.S.Gray (1972) "Listening and Note Taking." *Journal of Educational Psychology* 63(1), 8-14.
- Montassir, J.D. (1977) "A Listening Comprehension Program for University Preparation." *English Teaching Forum* 15(3), 2-6.
- Morrison, J. (1978) "Designing a Course in Advanced Listening Comprehension." in Mackey, R., and A.Mountford (eds.) *English for Specific Purposes*. London: Longman, 161-78.
- Nunan, D. and L. Miller (eds.) (1995) *New Ways in Teaching Listening*. Virginia, U.S.A.: TESOL, Inc.
- Rost, M. (1981) *Listening Contours* (Second Edition). Essex, England: Lingual House.
- Underwood, M. (1989) *Teaching Listening*. London: Longman.
- 達川 奎三(1995)「リスニング・タスクの設計」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.25. 197-210.
- _____ (1997)「『NHK英語リスニングテスト』のタスク分析」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.27. 235-243.
- 堂鼻 康晴(1994)「広島市公立中・高等学校の英語教育に関する実態調査 -リスニング指導-」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.24. 7-25.
- 日本放送出版協会(1993～97)『NHK英語リスニングテスト 初級、中級Ⅰ、中級Ⅱ』
- 橋本 光郎 (1989)「リスニングからスピーキングへ」『英語教育』No.38(6), 22-23.
- 藤枝 宏壽、ランドルフ・マン (1995)『Seeing Is Writing』大修館.
- 松村 幹男(編)(1990)『英語教育学』福村出版.
- (文部省検定済高等学校「オーラル・コミュニケーションB」用教科書)
- 石井 敏 他(1993) *ORAL COMMUNICATION COURSE B Listen*. 桐原書店.
- 神保 尚武 他(1993) *Hello there! Oral Communication B*. 東京書籍.
- 吉田 幸子 他(1993) *Sailing Oral Communication B*. 啓林館.